日本中国語学会会報　2025年7月

https://ss1.xrea.com/www.chilin.jp/

◆目次◆

ご挨拶　　佐々木勲人（日本中国語学会会長）. 2

支部例会・研究例会実施報告　2025.1-2025.6 3

会議報告 6

全国大会および研究例会、「中国語学セミナー」開催のお知らせ 10

『中国語学』査読指針 12

選挙公示 13

事務局からのお願いとお知らせ 13

ご挨拶

佐々木勲人（日本中国語学会会長）

厳しい暑さが続いておりますが、会員のみなさまにはいかがお過ごしでしょうか。

すでにご案内の通り、今年度より新しく研究例会がスタートいたしました。地域ごとに開催していた従来の支部例会を改め、地域を限定しないオンライン形式の研究会として生まれ変わりました。記念すべき第 1 回には 60 名を超える参加者があり、活発な意見交換が行われました。ご発表いただきました中田聡美会員、野田寛達会員、司会をご担当くださった李佳樑会員、そしてご参加くださったみなさまに心よりお礼申し上げます。

新しい出来事としては、『中国語学』の第 256 号から第 265 号までの 10 号分（10 年分）の電子アーカイブ化が完了いたしました。これによって、『中国語学』のすべての号が J-STAGE に登載されることになりました。みなさまどうぞご活用ください。

昨年より検討を続けてまいりました『中国語学』の査読指針が公開されました。本学会の最も重要な事業の一つである学会誌の発行に関して、その基本的な手順と考え方を明示したものです。論文の投稿を予定されている方はもちろん、査読や編集にあたられる方、そして何より『中国語学』をご覧いただく会員のみなさまに、ぜひ一度お目通しいただきたい内容となっています。これまで一部の会員のみに共有されてきた情報を公開したことによって、投稿数の減少が続いている『中国語学』が活性化することを願っています。作成にあたり、前編集委員長の吉川雅之会員には長期間にわたりご尽力いただきました。この場を借りて深く感謝申し上げます。

さて、今年の全国大会は仙台の東北大学で開催されます。東北大学といえば、魯迅ゆかりの地として知られていますが、私が所属しております筑波大学もわずかではありますが魯迅とのご縁があります。1902 年に来日した魯迅は、はじめの約 2 年間、清国留学生のために東京に設立された弘文学院（後に宏文学院と改称）で学び、その後 1904 年に仙台医学専門学校へと進学していきました。魯迅が日本で最初に学んだ弘文学院を創設したのが、「精力善用」と「自他共栄」を理念とする講道館柔道の創始者であり、柔道の父と呼ばれた嘉納治五郎です。嘉納は筑波大学の前身である高等師範学校・東京高等師範学校の校長を 23 年半にわたって務めました。記録には、弘文学院から東京高等師範学校まで、あわせて約 8,000 人の留学生を受け入れたとあります。まさに日本の留学生教育の草分け的存在でした。

自分の職場の宣伝のようになってしまいお恥ずかしい限りですが、決してそのようなつもりはありません。昔の学長は偉かったのだなと感慨に耽っているだけですのでどうかご容赦ください。現在、学内の留学生センター前には嘉納の偉業をたたえる銅像が設置されています。凛として立つその足もとを通るたび、日本の留学生受入れの現状をどう思うか、ひいては昨今の日中関係をどう思うのかを尋ねてみたい気持ちになります。

東京から仙台は最速の新幹線で 90 分。思ったよりも近いことに驚きました。杜の都でみなさまにお目にかかるのを楽しみにしております。

［2025 年 7 月 6 日記］

支部例会・研究例会実施報告　2025.1-2025.6

◆北海道支部例会

◇第 1 回：2025 年 3 月 8 日（土）13:30〜 北海学園大学豊平キャンパス 5E-21 ハイブリッド開催

・大西博子（京都外国語大学）：浙江蒼南宜山方言の単字調における入声

蒼南県は浙江省最南端の沿岸部にあり、宜山はその東部に位置する。本発表では、宜山で話される呉語（温州語）を対象とする。呉語の入声は、短く詰まって発音される「短促調」である点が特徴だが、温州ではその特性は失われ、舒声の音長よりも長くなっている。しかし、他の声調との合流は見られず、依然として入声という調類は保たれている。先行研究では、宜山の入声も短促調ではない点は確認できるが、それ以上の実態はわからない。本発表では、音響音声学的な手法を用いて、入声と舒声の音長と音高を比較しながら、単字調における入声の特性について明らかにする。また、発話者間の比較を通して、単字調における入声の動向についても分析する。

・阮偉傑（香港大学）：四邑雙水方言的語音特徵

四邑粵語作為粵方言的分支，與其他粵語方言有著較大的差異。可是目前的方言點僅僅覆蓋城市，深入農村的方言調查目前仍然相當缺乏，意味著我們還未能通過充實的資料窺探四邑粵語的全貌。近年來，四邑粵語開始受到學者們的關注，本次研究焦點將會基於筆者對四邑地區於 2024 年進行的田野調查所得結果進行分析，在補足四邑粵語農村語料的同時，也發現了不少農村與城市的方言差異。報告將圍繞調查結果進行討論，並選取當中的區別性特徵進行詳細分析，從新語料的角度探討粵語四邑方言目前的劃分，以另一角度重新審視四邑粵語的分群問題。

・戸内俊介（日本大学）：上古中国語の「孰」は定語、状語になり得るか

上古中国語の「孰」についてはかねてより、主に主語を表す機能に限定され、目的語としての用例は稀であり（いずれの場合も統語的には動詞の前に置かれる）、さらに定語としての用法がないとされてきた。しかし、「孰君而無稱」（『春秋公羊伝』昭公 25 年）や「孰王而可畔也」（『呂氏春秋』行論）を始めたとした一部の用例の「孰」を、定語または状語として解釈する研究者も少なくない。本研究は、先行研究において定語や状語と分析された「孰」の用例を逐一検証し、実際には「孰」が定語や状語として機能することはなく、常に主語もしくは目的語として用いられていることを論証することを目的とする。

◆関東支部例会

◇第 2 回：2025 年 1 月 12 日（日）10:00〜 オンライン（Zoom）による開催

・張盛開（静岡大学）：平江快板押韵研究

本研究对湖南省平江县的口传文化快板的押韵进行全面分析。本研究使用的平江快板资料有三种：一是作为平江影戏的耍戏或者舞台戏的余兴实际演出的完全即兴创作的快板（本人摄录并作文字转写），二是抖音等网上公开的事先创作文字之后再进行表演的快板，三是流传下来的传统快板。本研究以戏曲十三辙为标准，对这三种快板的押韵字进行分类、统计与分析，并利用分析结果整理

平江快板的押韵韵部与押韵规则。事先创作的快板与传统的快板一般为七字四句，前两句仄声韵，后两句平声韵，即兴创作的快板的押韵则没有那么严格。对押韵字的初步分析结果表明平江快板基本根据戏曲十三辙进行押韵，但也有切合平江方言实际语音的地方。

・劉淼（沖縄国際大学）：『金瓶梅詞話』における感動詞の用法と特徴

感動詞は発話者の感情表現や呼びかけにおいて重要な役割を担う品詞であるが、その定義は曖昧であり、感嘆詞や感動的表現といった用語が混在している。また、中国語の品詞研究では感動詞が軽視されがちで、研究の進展が遅れている現状がある。本研究では、明代白話小説『金瓶梅詞話』を対象に、感動詞の形式や出現条件などを詳細に分析する。特に“耶噪”、“耶噪耶噪”など、他の白話小説には見られない特徴的な感動詞に注目し、それらの用法や機能を整理することを試みる。『金瓶梅詞話』における感動詞の特徴を明らかにし、感動詞が近世中国語において果たす役割を考察することで、感動詞研究に新たな知見を提供することを目的とする。

◆北陸支部例会

◇第 1 回：2025 年 3 月 22 日（土）13:00～ IT ビジネスプラザ武蔵 ハイブリッド開催

・加納希美（金沢大学）：“萌”は誰のものか

“萌”は、「稚嫩而惹人喜爱的」という属性を表すとされ、「现代汉语词典（第 7 版）」に初めて形容詞として収録される。しかしながら、SNS 上の投稿では、“萌”が授与を表す動詞（“给”、“送”など）であるかのように、後方に二つの名詞性成分（N1、N2）をおき、“萌了 我 $_{N1}$ 一脸血 $_{N2}$”のような形をとる例も稀ではない。本発表では当該表現を「萌え構文」と仮称し、「抗しがたい強烈な情意（“萌”）の出来を訴える表現」として特徴づける。その上で、当該構文において“萌”が使役動詞相当の意味機能をもつことを指摘し、「生態心理学」における「アフォーダンス」の観点や、構文論的観点を取り入れながら、その内在的、外在的要因を考察する。

・井上優（日本大学）：日本語と中国語の焦点表示について

日本語と中国語はともに「主題を持つ文」と「主題を持たない文」を文法的手段により明確に区別するが、「焦点を持つ文」と「焦点を持たない文」の区別は文法的にはそれほど明確ではない。その中で、中国語では、いくつかのケースについて、「是…的」構文や副詞「就」などの文法的手段による焦点表示が義務的になる。本発表では、中国語においてどのような場合に文法的手段による焦点表示が義務的になるか、そして、なぜ文法的手段による焦点表示が義務的になるのかについて、日本語と対照しながら考察する。

◆中国支部例会

◇第 1 回：2025 年 1 月 25 日（土）13:00～ 広島大学東広島キャンパス総合科学部 M-2F 多目的室

・玉素甫・艾沙（広島大学）：敦煌文献における題識整理の研究史回顧

敦煌文献の整理は発見当初から目録、校録、図冊を中心に基礎研究がおこなわれてきた。目録は初歩的理解を促し、校録は注釈や解説を通じて詳細な理解を可能にした。図冊は画像主体の整理形式として分類や注釈を加え、研究の深化に寄与した。こうした基礎研究の中で、写本の題識は、書写当時の状況を知ることができる、使用される書体とくに俗字体は文字学の重要な資料と

なる、題識の内容は漢語史の研究となりうる、など高い史料価値を持つことが理解され、基礎研究の一部としてさらに研究が進められるようになった。本研究では、敦煌文献の基礎作業の中で、題識研究のこれまでの流れと漢語史研究に与えた影響について論じていきたい。

・劉苗苗（広島大学・院）：指示表現から談話標識へ―『東海道中膝栗毛』における「コリャ、ソリャ、アリャ」を事例として

現代日本語の指示詞は「コ・ソ・ア」の三系列があるが、歴史的にはその発展が対称的ではなく、特に「ソ」系は独自の用法が発達している。指示表現から談話標識への変化も多く見られ、調査によれば、縮約形の「コリャ」「ソリャ」「アリャ」の中に「ソリャ」が談話標識として最も多く使用されることがわかっている。一方、近世資料では「コリャ」が多用されていた。本稿では、近世資料を基に「コリャ」「ソリャ」「アリャ」の特徴と談話標識としての用法を検討する。また、中国語では“那个”が多用される現象が見られるため、中日対比の一環として日本語部分を記述した後、中国語の調査を行い、両言語を比較して相違を期待している。

・趙麗莅（広島大学・院）：敦煌対話体写本文献研究―賦と論議をめぐって―

敦煌の講唱文献は、中国唐五代の講唱の状況を知りうる手がかりが多く残されていることから、これまでにも注目を集めてきた。その中には、対話体と称される対話を通じてストーリーが展開される戯曲にも似た文献も残されているが、このような写本は他の講唱体文献と異なり、その用途と上演形式などについて解明されていない部分が多い。発表者の研究では、いくつかの対話体写本の内容、文体、言語的特徴、書写状況の共通点について調査を行っており、本発表では、用途の違いと言葉遣いという観点から、この一連の対話体文献が講唱文学においてどのような位置付けを持つのか、明らかにしていきたいと考える。

◆研究例会

◇第 1 回：2025 年 6 月 7 日（土）13:00～ オンライン（Zoom）による開催

・中田聡美（大阪大学）：〈祈使〉としての“不敢 VP” ―“不 X”と禁止・制止をめぐって―

現代中国語において、“不敢”は「～する勇気がない」の意味（dynamic modality：動的モダリティ）を表す一方で、禁止・制止の意味（deontic modality：拘束的モダリティ）を表すことがあると知られている（林刘巍・张寒冰 2016 など）。本研究では禁止・制止の〈祈使〉としての“不敢 VP”を研究対象とし、その意味的、形式的特徴を再考察する。また“不敢”をはじめとする“不 X”形式と禁止・制止の関係性について、モダリティの意味領域間の繋がりに着目し、分析を行うことを試みる。

・野田寛達（明治大学）：疑問詞の疑問機能の連続性についての一考察

本発表では、疑問詞“哪”、“谁”、“什么”の疑問機能に関して、木村 2012［2008］と木村 2015 の「対象（個体）指定要求」と「属性記述要求」という枠組みを、機能の連続性の視点から捉え直すことを試みる。これらの疑問詞を連続性の中に位置付けることで、外的―内的、客観―主観、具体―抽象という特徴の連鎖が読み取れるようになると考えている。また、その他の疑問詞を同様の連続性に位置付けることも試みたい。

会議報告

■編集委員会

◆第 1 回編集委員会（『中国語学』272 号）

・日時 : 2025 年 3 月 22 日（日）（Zoom によるオンライン開催）

・出席者：伊藤さとみ（委員長）、鋤田智彦、吉田泰謙、盧建、荒木典子、小嶋美由紀、張盛開、劉驫（以上委員）16 時より吉川雅之（活性化の取り組み担当）

【議事】

1. 『中国語学』第 272 号の投稿論文について

・投稿総数は 18 篇。審査の結果 14 篇を受理した。4 本を条件付き受理としたが、いずれも期限内に条件が満たされた原稿が投稿者より提出されたため、18 篇を受理した。分野別内訳は、音韻 2、教育法 1、現代文法 10、文字 1、方言 3、歴史文法 1 である。各篇について査読者各 3 名を決定した。査読報告書の提出期限を 5 月 6 日（火）とし、5 月 17 日（土）の第 2 回編集委員会において採否の決定を行うこととした。

2. 『中国語学』第 272 号の特集記事について

・2024 年度全国大会での特別講演の講演者周韌教授および任鷹会員に寄稿を依頼した。

3. 2025 年度学会奨励賞の候補者について

・『中国語学』第 271 号に掲載された論文の執筆者の中から 2 名を選出し、5 月 17 日（土）の第 2 回編集委員会において候補者を決定することとした。

4.『中国語学』活性化の取り組みについて

・『中国語学』活性化の取り組みについて、吉川前編集委員長より説明を受け、編集スケジュールの決定と査読指針および査読報告書の文言の修正を行った。執筆要領については、編集委員会で継続審議とした。

◆第 2 回編集委員会（『中国語学』272 号）

・日時 : 2025 年 5 月 17 日（土）（Zoom によるオンライン開催）

・出席者：伊藤さとみ（委員長）、鋤田智彦、吉田泰謙、盧建、荒木典子、小嶋美由紀、張盛開、劉驫（以上委員）

【議事】

1. 『中国語学』第 272 号の投稿論文の採否について

・受理した投稿論文 18 篇について、査読結果に基づいて審議した結果、1 篇を採用、6 篇を要二次審査、11 篇を不採用とした。要二次審査の 6 篇については、6 月 30 日（月）必着で修正論文の提出を求め、編集委員会において二次審査を行った上で、掲載の可否を最終決定することとした。

2. 『中国語学』第 272 号の特集記事について

・特集記事に関する進捗状況を確認した。

3. 2025 年度学会奨励賞の候補者について

・第 1 回編集委員会で選出した 2 名の候補者について審議を行い、最終的な結論に達した。

4.『中国語学』活性化の取り組みについて

・『中国語学』活性化の取り組みについて、273 号以降の編集スケジュール、査読指針、査読報告書、執筆要領の内容の確認を行った。

5.『中国語学』第 256 号から第 265 号までの電子アーカイブ化について

・J-STAGE 未掲載分の電子アーカイブ化について、公開の準備ができたと吉川会員より報告があった。

■大会運営委員会

◆第 1 回メール審議（2024 年 12 月 8 日-12 月 26 日）

委員 : 石崎博志（委員長）、池田晋、加藤晴子、加納希美、澤田達也、張玥、張恒悦、張佩茹、戸内俊介、野原将揮、八木堅二

【議事】

1. 招待発表者 2 名の推薦と承認

・委員の推薦に基づき、石村広（中央大）、下地早智子（神戸市外大）の両会員を招待発表の登壇者として選出した。

2. 開催形式

・大会の開催形式は 1 日目、2 日目とも対面のみとした。

◆第 2 回メール審議（2025 年 1 月 22 日-31 日）

委員：同上

1. ワークショップ応募規定の確認

・第 75 回大会の公募に先立ち、ウェブサイトに掲載する応募規定（日本語版）の修正・確認を行い、あわせて中国語版を作成した。

◆第 3 回メール審議（2025 年 3 月 1 日-18 日）

委員：同上

【議事】

1. 書類修正・確認

・第 75 回大会の一般研究発表の公募に先立ち、ウェブサイトに掲載する各種応募関係書類（研究発表応募規定、ポスターガイドライン、ワークショップ応募規定、審査用要旨）の日本語版・中国語版の修正・確認を行った。

◆第 4 回メール審議（2025 年 4 月 1 日-11 日）

委員：同上

【議事】

1. 招待発表の発表時間帯と発表時間

・招待発表の発表時間帯は終了時間を考慮して分科会のプログラムに組み込むこととし、持ち時間は 1 人あたり 45 分とした。

2. 第 76 回大会について

・候補校について審議した。

■学界展望編集委員会

1. 2024 年「学界展望　語学」の編集

・2025 年 3 月 1 日に学界展望編集委員会委員に執筆依頼を送付し、5 月 20 日をめどに初稿を取りまとめることとなった。文字数は例年通り 15,000 字。

・今次の学界展望は、2025 年 10 月発行予定の『日本中国学会報』第七十七集に掲載され、『中国語学』第 272 号に転載される予定である。

2. 2023 年「学界展望　語学」の中国語版

・今年度は 2023 年の「学界展望　語学」中国語版が作成される予定であるが、2025 年 5 月 10 日現在、中国語訳を担当する中国社会科学院文学研究所からの連絡はない。

■2025 年度第 1 回理事会

日時：2025 年 5 月 18 日［日］、13:00-16:00

場所：筑波大学東京キャンパス 431 会議室

（※ハイブリッド開催）

出席者 : 佐々木勲人（会長）; 松江崇（副会長）; 伊藤さとみ、加藤晴子、下地早智子、鈴木慶夏、三宅登之、山崎直樹（以上理事）; 伊藤さとみ（編集委員長 [兼任]）; 吉川雅之（前編集委員長）; 石崎博志（大会運営委員長）; 鈴木慎吾（ウェブリソース委員長）; 下地早智子（学界展望編集委員長 [兼任]）; 今村圭、上田裕、金佳（以上幹事）

【報告事項】

1. 一般報告

1.1 役員・委員等の異動

・評議員交代

東北支部：塚本信也（東北学院大）

→◎張佩茹（東北大）

土屋育子（東北大）

→鋤田智彦（岩手大）

※◎は世話人

1.2 会員動向（2025 年 4 月 1 日現在）

・会員数　4 月 1 日現在　（増減は 2024 年 10 月 1 日を基準とする）

		4/1 現在	増減
総会員数（賛助会員をのぞく）		861 名	−50
（内訳）	顧問	10 名	±0
	名誉会員	9 名	−1
	通常会員	775 名	−42
	団体会員	4 名	±0
	海外会員	63 名	−7
賛助会員		19 社	±0

〔昨年度除籍者〕33 名（国内会員 27 名 / 海外会員 6 名）

2025 年 4 月 2 日から現在までの入会者 3 名

ご逝去 1 名（平山久雄　名誉会員）

2. 支部例会関連

・支部例会世話人交代

関東支部：野田寛達（明治大）

→西香織（明治学院大）

3. 2025 年度からの研究例会

佐々木会長より、従来の支部例会に代えて 2025 年度より発足する研究例会について説明があった。

4. 大会運営委員会報告

石崎委員長の代理として、加藤理事が次の報告を行った。

4.1 委員の交代

2024 年 12 月 1 日

・退任：吉田泰謙会員（関西外国語大学。2024 年開催校代表）、橋本永貢子委員長、浦山あゆみ会員、島村典子会員、福田翔会員

・就任：張佩茹会員（東北大学。2025 年開催校代表）、池田晋会員、加納希美会員、澤田達也会員、八木堅二会員

4.2 第 74 回大会で見られた問題について

・問題点を精査し、対応策を検討・確認した（2024 年 11 月 6 日～14 日）。

4.3 第 75 回大会の準備状況

1) 日程・開催校・代表者・開催形態

［日程］2025 年 11 月 8・9 日（土・日）

［開催校］東北大学川内キャンパス（宮城県仙台市）

［代表者］張佩茹会員

［開催形態］対面

2) 特別講演

・田野村忠温名誉教授（大阪大・非会員）

・定延利之教授（京都大・非会員）

3) 招待発表

・石村広会員（中央大）

・下地早智子理事（神戸市外大）

4) 各種募集状況

・ワークショップ：5 月 17 日（土）～5 月 31 日（土）

・研究発表：6 月 16 日（月）～6 月 30 日（月）

5) 予稿集原稿提出期間
・9 月下旬を予定。
6) 託児所
・学内に設置の予定
7) 参加申し込みおよび参加費
・昨年同様、事前に参加申し込みおよび参加費の支払いを推奨する（Peatix を利用する予定)。当日の受付もあり。

5. 編集委員会報告

伊藤委員長より次の報告があった。

5.1 『中国語学』第 272 号の投稿論文の採否について

1）採用・不採用・要二次審査の判定を行い、18 件中 1 件を採用、6 件を要二次審査、11 件を不採用とした。
2）投稿者宛送付文書の作成を、各担当者に依頼した。
3）査読結果とりまとめの期限は 5 月 24 日に設定した。
4）要二次審査となった論文の修正原稿および修正内容リストの提出期限は 6 月 30 日に設定した。

5.2 『中国語学』第 272 号の特集記事

周刃教授(“层次结构、主干结构和扁平结构”)と任鹰会员（“大语法”观念与汉语语法教学）から寄稿論文を受け取った。編集委員会で形式面についてチェックが済み次第、入稿の予定である。

5.3 2025 年度学会奨励賞の候補者について

該当者なしということが承認された。

5.4『中国語学』273 号からの執筆要領、投稿規程、査読報告書、査読要領、および査読指針の改定箇所の確認

・執筆要領について、論文題名の〈 〉を《 》に変えることが承認された。
・査読報告書の日本語版を確認し、理事会で承認され次第、中国語版の作成に着手することを確認した。
・投稿規程、査読要領、査読指針についても、文言を確認した。

6. 学界展望編集委員会報告

下地委員長より次の報告があった。

6.1 2024 年「学界展望　語学」の編集

・2025 年 3 月 1 日に学界展望編集委員会委員に執筆依頼を送付し、5 月 20 日をめどに初稿を取りまとめることとなった。文字数は例年通り 15,000 字。
・今次の学界展望は、2025 年 10 月発行予定の『日本中国学会報』第七十七集に掲載され、『中国語学』第 272 号に転載される予定である。

6.2 2023 年「学界展望　語学」の中国語版

・今年度は 2023 年の「学界展望　語学」中国語版が作成される予定であるが、2025 年 5 月 10 日現在、中国語訳を担当する中国社会科学院文学研究所からの連絡はない。

7. 中国語学セミナーについて

・山崎理事より中国語学セミナーの準備状況について報告が行われた。

8. 除籍候補者と住所不明者について

・佐々木会長より、除籍候補者と住所不明者の今年度の状況について報告が行われた。併せて、住所不明者に関する情報提供が呼びかけられた。

【審議事項】

1. 次期全国大会開催校について

・石崎委員長より次期開催校について以下のとおり提案があり、承認された。

［日程］2026 年 11 月 7・8 日（土・日）

［開催校］岡山大学津島キャンパス一般教育棟（岡山市北区）

［代表者］石井友美会員

［開催形態］対面

2. 今年度の全国大会について

2.1 開催形式について

・石崎委員長より、今年度の大会の開催形式について提案があった。オンライン（ハイブリッド）はたとえそれが部分的な導入であっても開催校の負担が大きいため、対面形式のみで行うことが承認された。

2.2 招待発表について

・第 75 回大会は会員の帰宅の都合上 2 日目の終了時間を早める必要がある。よって招待発表を一般発表の分科会のスケジュールに組み込み、1 人あたり 45 分（1 セッション２名）で行うことが承認された。

3. 学会奨励賞の授賞について

・編集委員会による最終的な結論（該当者なし）が承認された。

4. 選挙管理委員について

・佐々木会長より選挙管理委員の人選について以下のとおり提案があり、承認された。

［委員長］鋤田智彦会員

［委　員］片倉峻平会員（開催校）

今村圭会員（事務局）

5. 今年度の理事選挙について

・佐々木会長より、「会長及び理事選出方法に関する内規（→第 10 条関連）」に基づき、オンライン形式で理事選挙を実施すること、ならびに理事選挙の運営を選挙管理委員会に委嘱することについて提案があり、承認された。

6. 顧問・名誉会員の推挙について

・ニューズレターに名誉会員の推挙依頼を掲載することとした。

全国大会および研究例会、「中国語学セミナー」開催のお知らせ

第 75 回全国大会開催のお知らせ

今年度の大会は東北大学川内キャンパスにて 11 月 8 日（土）～11 月 9 日（日）の日程で開催されます。みなさまふるってご参加ください。採択者一覧、大会プログラムは 7 月末以降、学会ウェブサイト上に順次アップする予定です。なお、予稿集は第 70 回より電子版のみの刊行となっております。詳細は学会ウェブサイトをご参照ください。

（事務局）

2025 年 7 月

今年度の研究例会実施スケジュール

地域を限定しないオンライン形式の研究例会がスタートしました。スケジュールは次の通りです。

事務局担当：6 月（開催済み）
北陸支部担当：8 月（発表者募集中）
東海支部担当：10 月
関西・四国支部担当：12 月
九州支部担当：12 月
関東支部担当：2 月
北海道支部担当：3 月
中国支部担当：未定

みなさまのご参加を歓迎します。開催時期および回数は変更になることもありますのでご了承ください。開催日程、申込締め切り、連絡方法などにつきましては学会ウェブサイトでご確認ください。なお、発表者の方には発表要旨（300 字以内）の事前提出をお願いしています。詳細については、開催担当支部の世話人までお問い合わせください。

（事務局）

第 7 回「中国語学セミナー」開催

・開催日時：2025 年 9 月 6 日（土）13:30～17:00（日本時間）
・開催形式：Zoom ミーティングによるオンライン開催
・参加方法：聴講無料、事前登録不要、ミーティング URL はメールで配信
・講師、講義題目、講義要旨（登壇順）：

吉川雅之（東京大学）：ラテン文字表記法の展開：発音の可視化とその先

現代標準中国語「普通話」は簡化字（簡体字）と漢語拼音（ピンイン）を文字表記の基盤としている。漢語拼音はラテン文字をベースとした発音表記法であるが、字母と発音の関係だけでなく綴字規則にも独特さがある。そこで、普通話の音節構造・音韻体系と漢語拼音の関係から説き起こし、中国語の他の発音表記法、更には近隣諸言語のラテン文字をベースとした正書法にまで視野を広げて、表記法の類型と系譜について考えてみたい。併せて、東アジアのダイグロシア社会でラテン文字が果たした役割について私見を述べる。

沈力（同志社大学）：「尴什么尬」から見る中国語における形態素の単音節性

言語学の古典的な理論では、形態素は「意味を持つ最小の単位」と定義されてきた。しかし、意味を持つか否かで定義すると、連綿詞（例：尴尬）や音訳語（例：幽默）などの二音節の言語形式は「形態素」になるが、これらのほとんどは形式的に分離可能である（例：尴什么尬，幽什么默）。これは「分離不可能な最小の単位」という形態素の定義に反する。この矛盾を解決するため、「形態素とは、文法構造の構築機能を持ち、かつ分割不可能な最小の〈文法単位〉である」という新しい定義を提案する。そして、この新定義による形態素は、中国語では主に単音節の形式に限られるのに、英語や日本語では多音節の形式も存在する。この違いを言語類型論の観点から考察していく。

（事務局）

『中国語学』査読指針

日本中国語学会
2025 年５月

１．査読の基本方針

（1）投稿論文１篇当たりの査読者数は３名を原則とします。

（2）査読は中立な立場を以て公正に行います。

２．査読評価

投稿論文の査読は，以下の観点を含み，形式面・内容面の両方から行います。

・中国語学の発展に寄与し得る有益な問題を論じているか
・視点や手法に斬新さはあるか
・新しい知見は得られているか
・先行研究の把握は十分か
・データの収集方法・量は妥当か
・依拠する文献や版の選定は適切か
・分析方法や論証に説得力はあるか
・構成・展開は論理的かつ明快か

３．採否判定

編集委員会は，査読者による評価と査読報告書の内容に基づき，論文の採否を判定します。

・採用（必要に応じて若干の修正を加えた上で掲載する。）
・要二次審査（１か月半の修正期間で修正された原稿の内容を編集委員会が確認し，最終的な採否を決定する。）
・不採用

４．査読に関する所要日数

（1）投稿受付期間終了日から査読依頼までは約２週間。

（2）査読期間は約 45 日間。

（3）査読期間終了日から採否判定までは約３週間。

以　上

選挙公示

2025 年 11 月 1 日（土）～11 月 7 日（金）に「会長及び理事選出方法に関する内規（→第 10 条関連）」に基づき理事選挙を行います。選挙はオンラインで行います。投票の具体的な方法については、10 月上旬頃、メールでお知らせします。メールアドレスの変更をご希望の方は､9 月末日までに clara で手続きを行ってください。投票締切後、選挙管理委員会が速やかに開票結果を確認し、総会およびウェブサイト等でお知らせいたします。

選挙管理委員会委員

鋤田智彦（委員長）、片倉峻平（開催校）、今村圭（事務局）

（事務局）

事務局からのお願いとお知らせ

名誉会員の推挙について

名誉会員の推挙は、9 月 30 日までに推薦文を添えて、事務局宛にメール送付をお願いします。なお、名誉会員称号授与の条件は、年齢満 70 歳以上で継続して 20 年以上本会会員であった方のうち、本会の発展に功労のあった方となっており、理事会、評議会の審議を経た上で会員総会において決定されます。

住所不明の会員

事務局より送付した郵便物が返送されてきた会員のお名前を掲げておきます。もし御自身のお名前を見つけられましたら、速やかに clara から住所変更の手続きを行ってください。またお知り合いの方のお名前がありましたら、事務局までご連絡をお願いします。

荒屋勸、泉興長、張桂珠、丁鋒、八木堅二、山田大輔、楊達、徐丹、井川壽子、陳瑩、小西真帆、張佳妮、王漫、劉峪伽、曹瑞、林智、黄欣悦、王欣蕊、李丹

2025 年度会費納入のお願い

2025 年度（2025 年 4 月～2026 年 3 月）の会費（国内通常会員 6,000 円、海外会員 6,000 円）の納入をお願いいたします。8 月 31 日まで（**研究発表応募者は 6 月 30 日まで**）に会費納入専用振替口座【00980-6-282216 日本中国語学会】宛にお願いします。

内規により「2 年を超えて会費の納入がない場合は、当該会員に連絡の上、除籍」となりますのでご注意ください。

会費納入状況は、オンライン会員情報管理システム（clara）により直接ご確認いただくことができます。同システムは、住所・勤務先を始めとする各種変更手続きにもご利用いただけます。

オンラインクレジットカード決済も可能となっております。clara にログインの上、＜会費支払い状況確認＞からお支払いください。

会員情報更新のお願い

オンライン会員情報管理システム（clara）

にアクセスして、ご自身の会員情報の確認と更新をお願いします。

退会について

退会は会費納付が前提となっています。退会ご希望の方は必ず会費納付後の年度内にお申し出ください。

予稿集の販売

過去の大会予稿集は、第69回以前のものは好文出版にて1,500円でお求めになれます。第70回以降の大会予稿集は電子版のみの発行（非売品）です。詳しくは学会ウェブサイトをご覧ください。在庫につきましては好文出版（order@kohbun.co.jp）に直接お問い合わせください。

事務局の連絡先（2026 年 3 月まで）

事務局への送付先は以下の通りです：

〒305-8571 茨城県つくば市天王台 1 - 1 - 1
筑波大学人文社会系内
日本中国語学会事務局宛

また各種のお問い合わせは、学会ウェブサイト（https://ss1.xrea.com/www.chilin.jp/）内の「お問い合わせ」ページをご利用ください。

2025 年 7 月

訃　報

本学会名誉会員である平山久雄先生（東京大学名誉教授）におかれましては、2024 年 12 月 24 日に 92 歳の生涯を閉じられました。ここに謹んでお知らせいたします。永年にわたり本会と中国語学の発展に寄与された先生の多大なご功績をたたえ、心からご冥福をお祈り申し上げます。

2025 年 7 月

日本中国語学会会長　佐々木勲人

日本中国語学会会報 2025 年春季
（年二回発行）
発行者：日本中国語学会事務局
〒305-8571 茨城県つくば市天王台
1-1-1 筑波大学人文社会系内
E-mail: jimukyok_clsj@chilin.jp
URL: https://ss1.xrea.com/www.chilin.jp/
発行日：2025 年 7 月 8 日